

2 . 費用便益比 (B / C) の点検結果

計画交通量と事業費

計画交通量	14,900台 / 日
事業費	144億円

【参考】

前回評価時 の計画交通量 14,900 ~ 15,800台 / 日
 前回評価時 の事業費 145 億円
 平成19年度評価

点検結果

事業全体	B / C = 1.2
------	-------------

注) B、Cは、評価時(平成21年度)の価値に換算している。

【参考】

前回評価時 の事業全体 B / C = 1.4
 平成19年度評価

便益 (B) の内訳

	走行時間 短縮便益	走行経費 減少便益	交通事故 減少便益
事業全体	150億円	9億円	12億円

3 . コストの見直し

全体事業費 約 1 4 4 億円 (前回 (平成 1 9 年度) 評価時の事業費 約 1 4 5 億円)

1 . 事業費の増加要因

- ・なし

2 . コスト縮減の取り組み

- ・建設発生土を現場内で流用など 約 1 億円

事業費の増減： 約 1 億円

3 . その他

- ・維持管理についても、橋梁の塗装が不要になる鋼材の利用により約 0 . 9 億円、電気料金が経済的で耐用年数の長いトンネル照明の利用により約 1 億円のコスト縮減。

4. 便益(B)に計上されていない効果

通過交通の減少による生活道路の通学児童等の安全性向上

- ・約23,000台/日(平成17年度道路センサス交通量)の車両が通行している一般国道169号の通過交通の減少が図られるとともに、生活道路の交通量が減少し、児童数が約340人のたかむち小学校等の通学児童等の安全性が向上。

観光施設へのアクセス向上

- ・渋滞の解消や定時性の確保により、年間約230万人(平成19年度:吉野地域全体)が来訪する世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」に登録されている吉野山金峯山寺等へのアクセスが強化され、吉野地域の観光地としての魅力を向上。

日常生活の利便性向上

- ・一般国道169号の通過交通が転換することにより、一般国道169号の円滑な通行が可能となり、日常生活を中和地域に依存(橿原市への買い物率が20%以上)している吉野地域と中和地域の連携が強化され、吉野地域等の利便性が向上し、活性化が期待。



写真3

(交通渋滞の状況)



図3

(ネットワーク形成による観光振興)

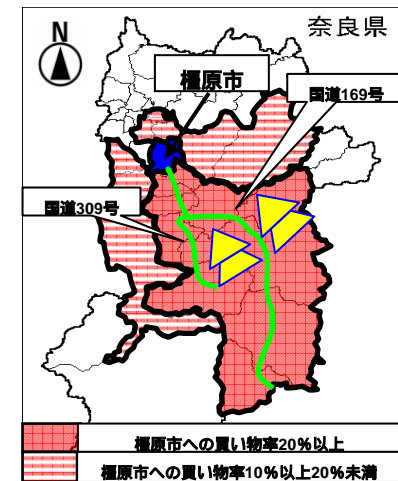


図4

(日常生活を橿原市に依存する中南和地域)
[橿原市への買い物率]